

学校運営計画(4月)

評価(中間)

学校運営方針	『自ら考え、情報を収集・選択でき、主体的に行動する人材の育成・輩出を目指す』 1 自主的・主体的に活動できる生徒を育成する。 2 身だしなみや礼儀が正しく、明るくさわやかに挨拶できる生徒を養成する。 3 教師としての専門性を高め、教育活動の質的向上を図る。	
昨年度の成果と課題 3年間継続的に取り組んできた評価法の開発や教科横断的な視点による学習指導計画の改善などにより、昨年度は、平成29年度福岡県立学校優秀校長表彰において『教育内容改善部門最優秀賞』を受賞した。また、入学選抜では県内で最高の志願倍率を誇るなど本校教育活動に一定の評価を得ている。今年度は「職員を全うする気概」を持ち、「気持ち」を伝え、その「気持ち」を醸成すること」が課題である。 今年度SPHが最終年度となるため、様々な取組みが次年度以降も継続できるように関係機関との連携を一層深めるとともに、普通科にも好影響を与え、「多様性」を認めあう本校の教育活動に相乗効果が生まれるよう進めていきたい。	年度重点目標 ○常に自己を高める気概と、他者に対する寛容性を持った生徒を育成する。 ○教科横断的な学習指導と、評価法の確立を図る。 ○教職員が研鑽を積み、生徒のキャリア発達を促すことで進路指導の充実を図る。 ○部活動生を支援するための複数の指導体制の充実を図る。 ○学校行事を通して学力の向上を図る。 ○普通科及びFD科のアイデンティティを確立するとともに調和を図る。	具体的な目標 (1) 職員間及び職員と生徒との信頼関係の構築による組織的な教育活動の展開 (2) 安心して失敗できる学校文化の醸成 (3) 思いやりや夢を叶える力など人間関係調整力の養成 (4) ICT機器(含電子黒板)の活用促進と、AIによる授業の質の向上 (5) 教科横断的な視点によるキャリアキュラム・マネジメントの充実・改善 (6) 本校独自の観点別評価法の確立と年間指導計画・ルーブリックのさらなる充実 (7) 課外・模試・テスト等進路関係事業の体系化 (8) 特選クラスや習熟度別クラス等の学力に応じた授業及び課外等の総合的な充実 (9) 伝統的な身だしなみ及び所作・動作の習得 (10) 地域住民や他校種、同窓会等とのさらなる連携・交流 (11) グローバル人材の輩出を目的とした異文化交流教育の積極的実施 (12) 教職員のキャリア発達を促すための研修(含外部)の充実 (13) SPHをはじめとしたキャリアキュラムや授業内容の研究・開発の推進

評価項目	具体的な目標	具体的な方策	評価(中間)	次年度(下半期)の主な展開
業務	新たな学力観に則った学習指導	電子黒板やICT機器を活用し、授業改善を行う。 学習時間を毎日記録させ、自主的学習から主体的学習になるように生徒へ声かけを行う。 定期考査ごとにルーブリックの振り返り・改善を行う。 定期考査の反省を行い、授業改善につなげる。 進路考査の連携を緊密に行い、システムの安定化を行う。 進路アドバイザーを各学年に配置し、データ管理を徹底する。 共有フォルダーのメモリーはバックアップメモリーを利用し実行する。 情報セキュリティの管理意識を定期的に啓発する。		
	観点別評価法の確立	ICT機器の貸出機を活用し、備品不足や不具合への対処の迅速化及び利用実態の把握を図る。 CAD教室の備品更新とIPアドレスの調整を実施する。 プロジェクターの管理や教室配電の見直しをする。 電子黒板の管理・使用方法を確立する。		
	ネットワーク環境の整備及び管理	eメッセージの配信を適宜行い、保護者へ情報を提供する。 広報課と連携して、ホームページの更新及び内容充実のための技術支援を行う。 防災訓練をできるだけ早い時期に実施し、防災に対して、生徒に備えさせる。 避難経路を常時、教室に掲示する。また、その経路を日ごろから使用させる。 ホームルーム等で、儀式的意義を生徒に伝える。各課と連携を図りながら、円滑に実施されるように調整する。 出版物の作成に早めに取り組み、内容を協議し、より多くの人員で校正を行う。 保護者の方々や連携する場を設定し、多くの方にご参加いただき、民主的な教育の振興を図る。 同窓会や、地域住民の方々に、学校行事に参加していただけるように連絡を行う。 身だしなみ、所作・動作の習得や校則の遵守などゼロトレランスを基礎に指導を行い、自主的な行動への移行を目指す。 学校行事や部活動、委員会活動を通じて主体的に活動できるリーダー、フォロワーを育成する。また、自己存在や自己肯定感を醸成し、自分の立場・役割に応じた立ち居振る舞いを習得させる。 目標の設定、定期会の開催、文化祭などの連携などの取り組みにより、生徒専門委員会の活性化を図る。 部活動生集会等を通じて意識の向上に努め、学校行事等で主体的に判断・行動し、学校に貢献できる生徒を育成する。 担任、教科担当者、部活動顧問との連携を図り複数の指導を行い、広報課と連携して部活動生の活躍を発信する。 全職員が教育目標に則り、ゼロトレランスによる指導を行い、報告・連絡・相談を徹底できる指導体制を構築する。 職員間、職員と生徒の信頼関係を構築し各行事における実行委員会、リーダー研修会を充実させる。 交通安全指導を中心に、登下校指導や集会時などに注意喚起を行う。 健康観察を全職員で徹底し、保健指導、健康相談の充実を図る。感染症予防の徹底を図る。 課外活動を定期開催し、各学年での情報共有を図る。また、保健行事の役割分担の徹底を図る。 患者医療申請などの手続きの円滑化を図る。		
	ICT活用指導力の向上	全職員が責任を持って清掃指導・監督をし、教室等の環境整備に気を配る。 1年オリエンテーション・美化週間・校外美化清掃の期間を利用し、清掃活動の活性化に取り組む。 安全・救命講習会、献血講習会等の健康教育推進講習会等を計画的に実施し、体育的行事(クラスマッチ、体育祭等)では保健体育科と連携を取り、全職員で学校行事における傷害、事故防止に努める。 献血については、新たに、生徒自ら献血センターへ行き、献血を行う期間を検討する。 学年のコーディネーターの業務を明確化することで、迅速な情報共有とフィードバックを行う。 保健室利用の多い生徒への対応を検討する。 外部研修やスクールカウンセラーの申し送りに参加することで、専門性を高める。 配慮を必要とする生徒に対しては、個別の教育支援計画や生徒情報シート等を活用して、継続的な支援や見守りを行う。 各種アンケートの円滑な実施と集約を図り、いじめ・不登校対策等をサポートする。 配慮が必要な生徒への対応についての研修を案内し、職員に適切な支援の在り方を啓発する。 新入生の保護者や中学校との連携を強化し、入学時からの支援体制をつくる。 保護者の理解と協力を得て、引き継ぎシートを活用した進学・就職先への申し送りを行う。 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、医療機関等の助言を受けながら、よりよい支援の方法を検討する。 自分の適性を知り、調べ学習等を通して幅広い進路の知識・考え方を育成し、進路意識を高める指導をする。 グローバル人材の輩出を目的とし、日本の文化を留学生に英語で発表するなど異文化交流の実施 個別懇話会、進路講演会、社会人招聘授業、就職・公務員ガイダンスの実施		
	外部への情報発信及びその支援体制の確立	健康観察を全職員で徹底し、保健指導、健康相談の充実を図る。感染症予防の徹底を図る。 課外活動を定期開催し、各学年での情報共有を図る。また、保健行事の役割分担の徹底を図る。 患者医療申請などの手続きの円滑化を図る。		
部生	防災・危機管理に対する意識の向上	健康観察を全職員で徹底し、保健指導、健康相談の充実を図る。感染症予防の徹底を図る。 課外活動を定期開催し、各学年での情報共有を図る。また、保健行事の役割分担の徹底を図る。 患者医療申請などの手続きの円滑化を図る。		
	式典や教育活動に関する記録の充実			
	PTA、同窓会、地域住民との連携・交流の充実			
	生徒指導			
	部活動の活性化及び強化			
生徒支援	健康教育推進事業や学校行事等での傷害、事故防止活動			
	センター的保健室経営の充実			
	学習環境整備ができる生徒の養成			
	生徒支援課としての組織力の強化			
	教育相談機能の充実			
進路	外部関係機関・保護者との連携強化			
	生徒のキャリア発達を支援する進路指導			
	大学入試と卒業後の進路保障のための課外			
	希望進路実現のための模擬試験の有効活用			
	本校の魅力を示す教育活動、特選クラス、指定強化部、進路や部活動の実績を、志願倍率の増加による入学希望者の質的、量的な向上			
広報	本校の発展的な教育活動の認知度を高め、中学校や地域社会へアピールする			
	生徒会や部活動と連携し、本校の校風や伝統、生徒の魅力を全面的に出し好感度を高める			
	授業研究における成果の公開及び伝達			
	校内・校外職員研修の充実・発展			
	人権教育の充実・発展			
研究	研究課題			
	図書教育の充実・発展			
	国際交流事業の充実・発展			
	主目的・対話的で深い学びにつながる授業の研究			
	評価の標準を生かした効果的な評価方法の研究			
年	学年全体でゼロトレランスに取り組み、生徒の基本的な生活習慣を確立させ、自主性を育成する。			
	学校における諸活動を通じて他者と協働し、主体的に行動できる生徒を育成する。			
	自分の能力や適性に気づかせ、具体的な将来像を持たせようとする。			
	自らの課題を自覚し、主体的に問題解決を図ることのできる生徒を育成する。			
	場をわかまえ、臨機応変に適切な行動がとれる生徒を育成する。			
部	将来の職業選択を見据え、失敗を恐れず、より高い進路目標を目指すとする生徒を育成する。			
	自主的に行動し、主体的に判断できる生徒の育成			
	社会に貢献できる人間力の育成			
	自己の適性と能力に応じた希望進路の実現			
	学びの高度化と身についた力の見える化			

評価項目	学校道徳教育重点目標	具体的な方策	評価(中間)	次年度(下半期)の主な展開
道徳教育等	常に自己を高める努力をし、他者に対する寛容性を持って、社会や国・地域の発展と活性化に貢献しようとする「志」ある人間の育成を目指す。 ファッションデザイン科にあっては、SPHの活動や社会人招聘授業を通して、地域社会に貢献する志と高い倫理観や社会性、道徳性を育て、これからの社会や職場に専念で貢献する人間づくりを目指す。 職員間の連携や職員と生徒との信頼関係の構築により、自主的に判断し、主体的に行動でき、多様性を認められる生徒の育成を図る。	アクティブ・ラーニング型授業と学校行事により自己と他者との関係を理解させる。 総合的な学習の時間や多様な講演会により、生徒個々の「志」の形成を図る。 校外での作品展やファッションショーなど学習成果を発表する場を充実させる。 部活動や社会人招聘授業により、大人と接する機会を多く設ける。 臨床研修により諸学問の力を活用し、同窓会に立ちはたす自己イメージを確立させる。 生徒主体の学校行事を通して、協調性と多様性を認められる心を見守る。 観点別評価を参考にしつつ、自主的・主体的に学習に臨む意欲を育成する。		

評価項目	学校道徳教育重点目標	具体的な方策	評価(中間)	次年度(下半期)の主な展開
キャリア教育	キャリア教育の充実による高い志の生徒の育成	自己の適性に合わせた進路目標を自らの意志で設定し、その実現に向けて主体的に全力で取り組ませる。 教科・科目横断的な観点によるキャリア教育プログラムの充実・改善と3年間の学びを俯瞰する「学びの地図」の完成 ポータルサイトでの情報発信やインターネットを活用した学習指導の充実を図る。 研修会への参加や就業見学の交流による教職員の指導力とチーム力の向上 SPH事業等で多様な価値観や職業観に触れさせることにより高い志の醸成 生徒の変容を継続的に測る「生徒意識調査」の研究と結果に基づいたキャリア教育の指導の充実 社会人招聘授業や体験学習、資格取得等の一層の効果をもたらす指導の確立と高次元の資力と能力を身に付けた専門職業人の育成 中学校訪問、中高交流サービス、ホームページ、校外ファッションショーによる教育活動の情報発信(志願者数60名を目指す) 体験入学、小高連携、進路相談事業、校外作品展・ファッションショーにおける生徒の主体的発表による情報発信 複数教員担当による専門性(衣食住、保育など)発掘による教育内容の一層の充実 専門教科「家庭」(ファッション分野)の取組を踏まえた授業改善 「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の充実による問題解決能力と実践的態度の育成、社会参画と勤労意欲の向上		